



基本理念
 私達は、医療に携わる人間として、情熱と誇りと博愛の心を持ち、意欲ある医療活動を展開していきます。
 独立行政法人
 国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

医療におけるチームとは



NHO高知病院 院長
大串 文隆

6月に入り4年に1度のワールドカップが始まり、日本中が日本代表の活躍に熱狂しています。夜中に放映されるゲーム観戦に熱中して職員の皆さんの中にも睡眠不足の方が多いのではないのでしょうか。岡田ジャパンが2勝1敗でグループEを2位で通過し決勝トーナメントに進んだことは、久々の明るいニュースと言えるでしょう。また、1ヶ月前には、岡田監督にクレームをいていたサッカーファン、マスコミもいつの間にか岡田監督でなければと論調を変え、熱しやすく冷めやすいといわれている国民性を現わしているような気がします。このような社会の変化は国民として反省すべき点でもあるかと思えます。さて、最近、チームという言葉を見聞きすることが多くなったような気がします。特に、ワールドカップのゲームのあとの監督や選手へのインタビューの中でこの言葉がよく使われているように思います。岡田監督は日本のチームは個人技では海外のチームに劣るが団体プレーでは決して劣らない、また、100m走なら勝てないが、400mリレーなら勝てる可能性がある」と語り、サッカーがチームスポーツであると話しています。確かに、カメルーン、オランダ、デンマークのそれぞれの代表と比較すると体力的なハンディは明らかにありましたが、カメルーン、デンマークには勝利し、オランダ戦もほぼ互角に戦ったといえるのではないのでしょうか？ 個人

技にチームプレーで戦い、まさにサッカーがチームスポーツであることを私たちに証明してくれました。チームという言葉の辞書でみますと共同で仕事をする一団の人、二組以上に分かれて行う競技のそれぞれの組などとされており、チームカラー、チームメート、チームワークなどの言葉が知られています。病院においてもチーム医療などチームという言葉がよく使用されますが、病院で、よく使われるチームの意味するところは共同で仕事をする一団の人ということであり、このチームの確立が医療の質をあげるといっても過言ではないと思います。病院においてチームを確立するためには、それぞれ違う職種の人との関係を密にすることが不可欠ですが、その機会は多くありません。6月5日に開催された、高知病院フェスタは近隣の人々に対する病院紹介に加え職員相互の交流を深める機会を提供する重要なイベントでした。各職種から代表者が集まり、それぞれの立場で様々な企画を出し合い作り上げたフェスタは参加された人々には印象に残る一日であったと思いますし、高知病院のチームが確立された日でもあったと思います。この確立されたチームを礎に職員全員一丸となって、良質の医療を行い、高知病院を地域に信頼されるすばらしい病院に変えていくにはありませんか。

健康フェスタ 2010

小児外科 医長 佐藤 宏彦



健康フェスタ2010に御協力していただきまして誠に有難うございました。今年は約700人の参加があり、前回以上の盛大な会となり、主催者としては感無量の思いで一杯です。これはひとえに高知病院職員のチームワークの賜物だと思います。健康フェスタ2010を成功させるという大きな目標に向かって、職員すべてが自分で考え、行動・協力し、力を結集させた結果が今回の大成功につながったのではないのでしょうか。また個々の力は微力でも一つになれば大きな事を成し遂げられる実績を証明できたのではないのでしょうか。このチームワークを持ってすれば高知病院のさらなる発展につながると確信しました。

さて、今回の健康フェスタの目玉である2回目の市民公開特別講座は前回の講演内容が「がん」に関するもののみであったことから、がん以外のよくある疾患について講演していただきました。そして健康のための知識と予防医学の必要性について理解し



ていただく企画とし、少しでも多くの人に理解、納得していただくために演者の先生方には予行講演をしてもらい、時間厳守で、わかりやすい言葉の使用（医学用語は使わない）をお願いしました。また当日は講演内容をプリントした資料を配布するなど、前回の反省点を踏まえた上での進行が大成功につながったと思います。この場をかりましてご尽力いただきました演者の先生方、スタッフ、地域連携室の職員の皆様方に深くお礼申し上げます。

また個人的には前回実現できなかった手術室体験セミナーを開催することができたことも大きな進歩ではなかったかと思えます。

最後に高知病院が高知一の病院になるようにチームワークを持ってさらに一致団結しようではありませんか。今回のフェスタで感じた職員の結集した一つの大きな力を持ってすれば必ず実現できると思います。



第2回 市民公開講座

知識と健康



呼吸器科 医長 畠山 暢生

2010年6月5日(土)に第2回健康フェスタが開催されました。午後1時から2階地域医療研修センターにおいて第2回市民公開講座「知識と健康」が行われました。今回は、5人の先生に講演をしていただきました。

大串院長には、「高知病院の責任と役割」と題して、高知病院の歴史から理念・最新設備を含め、幅広く当院の紹介をしていただきました。皮膚科の永野先生には、身近な疾患「帯状疱疹」について、原因・症状・治療・感染予防などを中心に講演をしていただきました。小児科の武市先生には、「知るべき小児救急疾患」ということで、急な発熱時の対応を中心に、基本的なところから、わかりやすくお話していただきました。循環器科の名田先生には「知らない危険なメタボ」と題して、CT画像などを使用して、内臓脂肪・皮下脂肪などの違いについて解説

していただきました。また、メタボのこわさについても、お話ししていただきました。外科の安藤先生には、「最新の乳がん検診」ということで、当院に最近導入されたマンモグラフィー「アミュレット」を使用した画像などの実例を示していただきました。また、女性にとって、関心の高い乳がんの治療についても、わかりやすく説明していただきました。会場の方から、いくつかの質問もいただき、健康についての関心の高さを実感致しました。

今回、私は司会を務めさせていただきました。幅広い年齢層の多くの方に御出席いただき誠に有難うございました。これからも、皆さんに身近な健康に関する話題を提供させていただけたらと考えております。来年の公開講座もご期待下さい。お待ちしております。

コラム

臨床検査技師長
高橋 幹博

今年も、当院と地域との架け橋、「健康フェスタ2010」、昨年よりも準備が遅れ少し焦っていましたが、当日は天候も良く地域の皆様方の協力を得、無事終了することが出来ました。

私が主として担当した役割などについて紹介したいと思います。

ポスターの作成は当検査科、岸本副技師長が受け持ち、配布用チラシ原稿は院外の方にボランティアでお願いし、3回程程度の修正を行いました。ポスター及び配布用チラシの印刷は私の担当でポスターについては500枚、配布用チラシは他部門もいれて、1万枚ほど印刷いたしました。

この印刷したポスターを持ち宣伝活動に、久保田管理課長、上甲企画課長と近隣のスーパーマーケットや県庁、駅などに掲示をお願いして回りました。又、NHK、高知放送、高知新聞社、KUTVにも足を運びました。

開催日の一週間前には高知新聞に、開催案内が掲載され、また、大串院長が高知放送のラジオ番組で生出演にてPRを行いました。当日はNHK、高知放送(RKC)で放映されました。

昨年は高知市役所にも行きましたが、県庁を出て駐車場の入り口で駐車待ちの長い列を見ると長い待ち時間が頭をよぎりパスいたしました。

各販売品の依頼は、今年は2回目でもあり電話での連絡や、

打ち合わせに足を運んだりしましたが、大変スムーズに運びました。昨年と違った事は、JA朝倉青壮年部の方々による餅つきと、血液センターによる献血をお願いいたしました。又、山野草の写真展示を計画していましたが直前になり展示者の都合によりキャンセルとなりましたが、来年は山野草の華麗な花を皆さんにお見せ出来ると思います。

当日のアトラクション、第2駐車場での販売は、高知県立農業大学校による農産物、花の販売、JA朝倉女性部・JA朝倉青壮年部の皆様による農産物、加工品販売、餅つきなど、高知県立春野高校(ショップ花時計)による加工品、野菜、花など、高知大学教育学部特別支援学校による手作り作品の販売、リサイクル店による服などが駐車場の設営されたテントで販売されました。福祉用品の展示販売も行われましたが、福祉交流プラザでのイベントと重なっていたこともあり、展示場を訪れる方は少し寂しかったようでした。販売コーナーにおける販売品は開始より1時間もすれば売り切れるなど、商品の新鮮さと安さで大変賑わっていました。

又、血液センターによる献血は77名の方々の協力が得られました。当日は「A型ピンチ」でオープニングでも献血の呼びかけが行われました。

これらの、アトラクションを行うにあたり、それぞれの方々との打ち合わせや、当日の催し物を成功させるための準備も大変でしたが、地域の方々との触れ合いが出来、「地域に信頼される病院にする」ための努力が一緒になって行えたことは大変有意義な1日でした。

ご協力頂いた皆様方にこの場をお借りしお礼申し上げます。来年も宜しくお願いいたします。



COPD啓発イベント開催

呼吸器科 医師 稲山 真実



5月9日(呼吸の日)イオンモール高知で高知大学医学部血液呼吸器内科と高知病院が中心となりCOPD(慢性閉塞性肺疾患)啓発イベントが開催されました。COPDは近年増加傾向をしめし、他の疾患を併発することより肺の生活習慣病ともいわれ、非常に重要な疾患とされています。この啓発イベントに、ボランティア



先生、稲山はパネルやパンフレットを使って病気の説明をしました。三好看護師長、井上看護師は参加者の調整・誘導、森本技師と小島技師は肺機能検査を担当してくれました。COPDは重要な疾患ですが、その認知度は低く、啓発活動が重要であることが実感されました。この啓発イベントに病院からたくさん参加してくれたことにより、高知病院の存在感を示すことができたと思います。関係の皆さんには心よりお礼申し上げます。尚、当日、COPD啓発のシンボルカラーである金色に高知城をライトアップしました。

として医局から大串院長、細川医師、研修医の森下医師、稲山、看護部から三好看護師長、井上看護師、検査室から森本技師と小島技師が参加しました。イベント内容は、たばこの害と禁煙についての説明、肺の生活習慣病COPDについての説明、肺年齢体験コーナー(肺機能)、呼吸の健康についての医療相談などで、たくさんの市民が参加してくれました。大串院長が一人一人に丁寧に検査結果を説明されている傍らで、細川先生、森下

先生、稲山はパネルやパンフレットを使って病気の説明をしました。三好看護師長、井上看護師は参加者の調整・誘導、森本技師と小島技師は肺機能検査を担当してくれました。COPDは重要な疾患ですが、その認知度は低く、啓発活動が重要であることが実感されました。この啓発イベントに病院からたくさん参加してくれたことにより、高知病院の存在感を示すことができたと思います。関係の皆さんには心よりお礼申し上げます。尚、当日、COPD啓発のシンボルカラーである金色に高知城をライトアップしました。



新部長紹介



診療部長 井上 修志

旧国立高知病院から現在の独立法人国立病院機構高知病院となり、ますます地域における中核病院としての役割が重要になってきたと感じています。本年4月より診療部長という役職を拝命しその責任を痛感しています。まだ十分にこの役職に相応しい仕事は出来ていないと感じていますが、以前、地域連携の方の役職でありましたので、こちらの方も引き続きお手伝いできればと考えています。今後とも何卒よろしく願いいたします。

新医長紹介



小児外科 医長 佐藤 宏彦

このたびは小児外科医長に任命していただきまして誠に有難うございました。この場をかりて深くお礼申し上げます。

医長と言えざいぶん上の先生だなど研修医時代にはよく思ったものですが、いざ自分になってみると自分も年をとったなど実感しています。また最近では体力、集中力、記憶力、視力の低下など10年前では感じなかった事を経験するようになり、日々の体調管理、検診の必要性などを感じています。その反面、知識の量、技術の向上など長い年月をかけないと得ることのできないものを手に入れたと実感しているのも事実です。私が思い描く理想の医長とはいかなる手術をも卓越した知識、技術と指導力をもって、早くかつ安全にこなす医師であります。今までお世話になり小児外科、外科医として支えてくださった尊敬する諸先輩方がそうであり、その背中をみて育ってきた者としては理想の医長にならなければいけない責任を感じています。

最後になりますが、医長の名に恥じないように日々努力し、習得技術のさらなる向上と安全性の確保、新しい技術の習得、後輩への指導、学会発表、論文執筆、講演活動などを積極的に行う所存です。決してやらされているとは思わず、個々の能力向上がひいては病院の能力向上につながると思い、率先してやっております。今後とも宜しくお願い致します。



呼吸器科 医長 岡野 義夫

院となるように努力していきたいと思ひます。今後とも、よろしくお願ひ致します。

この度、平成22年4月1日より呼吸器科医長を拜命いたしました岡野義夫です。私は、平成12年10月1日、国立高知病院と国立療養所東高知病院が統合し、新しくなった国立高知病院に大串文隆院長、中村陽一元臨床研究部長、元木徳治前診療部長、畠山暢生呼吸器科医長、三木真理医師とともに着任し、約6年間呼吸器科で診療をさせていただきました。その後、大串院長の御高配によりまして、平成18年8月より東京の江東区にありまます癌研究会有明病院呼吸器内科にて平成20年3月まで研修をさせていただく機会をいただきました。研修を振り返りますと、最初は都会のスピードについていけず、大変苦労したことが思い出されます。癌専門病院の先生方と一緒に仕事をさせていただき、仕事に取り組む厳しい姿勢に感銘を受けました。毎日多くの患者さんが受診され、忙しい日々ではありましたが、肺がんに対する最新の治療、治験（新しいお薬と治療法の開発）、臨床試験（より良い治療法の開発）、臨床研究を経験させていただき、治験、臨床試験、臨床研究の重要性、必要性を改めて痛感し、大変充実した研修をさせていただきました。この場をお借りいたしましてお礼申し上げます。平成20年4月に当院に帰ってまいりまして早いもので2年が過ぎましたが、今後も癌研究会有明病院での貴重な経験を今後の診療、研究に生かしてまいりたいと存じます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



呼吸器科 医長 畠山 暢生

みなさん、こんにちは。呼吸器内科の畠山暢生（はたけやま のぶお）と申します。私は、2000年10月にこの病院に赴任して参りました。ちょうど、旧国立療養所東高知病院（池の療養所）と旧国立高知病院が統合合併した時でした。あれから、はや10年の歳月が経ったかと思うと、うそのようです。当初、院長を含め4人ではじまった呼吸器科も、現在では約2倍の人数となり、若い力も加わり、さらに充実してきております。

私の出身は、関東地方であり、大学入学と同時に高知県にやってきました。以後、約25年間高知で生活しておりますが、いまだに、土佐弁を習得することができておりません。家族にも変な土佐弁と言われ、また、患者さんに対しても、自分が土佐人になったつもりで土佐弁を使っておりますが、すでに、ニセモノと見抜かれているようです。

私は高知の気候・食べ物・ひとが好きです。これからも、高知を拠点にして、生活していきたいと思ひています。そして、この病院が、地域のみなさんにとって、さらに頼りになる病



呼吸器科 医長 町田 久典

4月より、畠山先生、岡野先生とともに呼吸器科の医長を務めさせていただいている町田久典です。2005年4月より当院の呼吸器科で勤務させていただくようになってから、まる5年が経過しました。以前に勤務してました高知大学医学部附属病院では、第三内科という呼吸器と血液を診療する科で、呼吸器科の疾患も担当してはいましたが、主に血液学を専門に行って参りました。

当院で勤務するようになってからは、呼吸器科としては県内でも最大級の診療数を誇る呼吸器科で呼吸器疾患を中心に診療させて頂き、経験を積み、勉強させて頂く事ができたおかげで、昨年は呼吸器科の専門医も（血液科も専門医を取得しています）取ることができました。

これからは呼吸器科だけでなく、病院全体の問題も考えながら、呼吸器科医長としての3本の矢？ともいわれる畠山先生、岡野先生と協力し、呼吸器科全体のレベルを上げることを第一の目標に、まず自分自身から改善を目指していきたいと思ひます。今後とも宜しくお願ひ致します。

合同パス大会を開催して



看護師長 山本 美保



て検査・疾患等のパスを使用していない退院調整が必要で、かつ在宅を目指しつつも、かなり難渋しそうな症例に焦点を絞り、退院調整会議で検討していました。その結果、対象を絞った対応を可能にしていました。しかし、当院は入院患者全員にスクリーニングを行い退院支援が必要な退院・転院のすべての患者が退院調整パスの対象となり、対象者数が多く今後の課題となっていました。今回の合同パス大会で、近森病院のようにシステムが稼働し、数年が経過している病院の退院調整に対しての職員の意識が高く、運用が定着しているということがわかりました。一

平成22年5月22日施設間の交流とパスの発展、パスに対する意識向上を目的に福祉交流プラザで「第一回近森病院・国立病院機構高知病院合同パス大会」を開催しました。参加者は医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカー、栄養士、理学療法士、作業療法士、診療情報管理士の178名で、高知県内はもとより遠くは東京、広島、岡山から10名の参加がありました。

今回のテーマである「退院調整のパス」について、両施設の取り組みを発表しました。

近森病院では退院調整パスの対象者判定におい

一方当院の運用は開始から日が浅く、退院調整パスが十分には浸透しておらず、職員教育の必要性を痛感しました。今後の課題が明確になりとても有意義な時間を共有することができました。

合同パス大会を開催することで、各施設間の情報交換を行うことができ、またお互いのパスの質の向上を図ることができたと思います。今後は退院調整に対する職員の意識付けを高め、各病棟に退院調整看護師の配置を検討しています。また組織の成長に合わせたシステムの見直しを図っていきたいと考えています。

目次

近森病院より

看護師：「退院調整パス・バリエーション分析」「病院における退院調整の取り組み」

ソーシャルワーカー：「医療相談における退院調整の現状と課題」

看護部長：「退院調整パスにおける医療従事者のアンケート結果」

高知病院より

看護師：「退院調整パス・作成、導入」「退院調整パスに関するアンケート集計結果」

ソーシャルワーカー：「退院支援～ソーシャルワーカー入職前後からの検討～」

医師：「スクリーニングシート分析」について当院が発表しました。

ミニレクチャー

退院調整の概要・こうち看護協会訪問看護ステーション所長：「高知県における退院調整の概要」

地域医療連携室だより

第53回 病診連携フォーラム

「人工呼吸器を学ぼう」を実施して



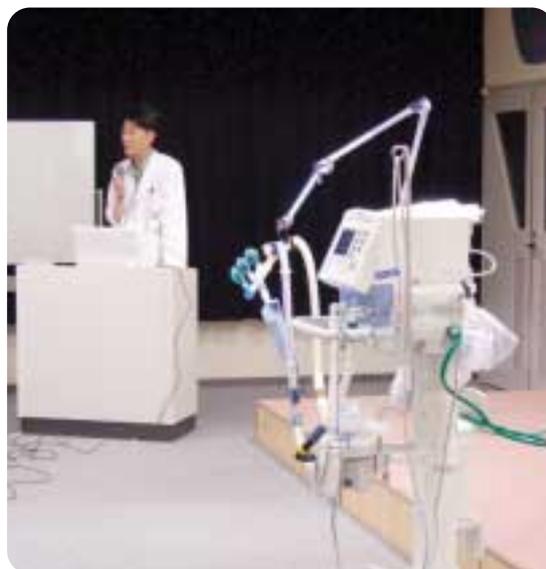
地域医療連携室 医療社会事業専門員
近藤 真二

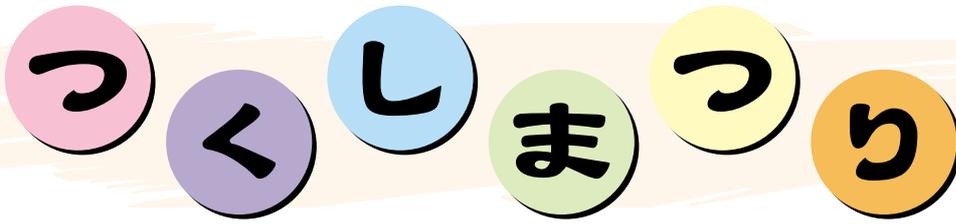
地域医療連携室では毎月第4水曜日、病病・病診連携の強化を目的に、地域医療機関に向けて勉強会や研修などを企画し発信いたしております。去る6月23日のテーマは「人工呼吸器を学ぼう」で、医療安全とのコラボ企画で実施いたしました。「人工呼吸器管理」の勉強会は、毎年、医療安全管理室が中心となり、全看護職員を対象として行われています。今年度の病診連携フォーラムの年間企画の際、院内職員を対象に実施している研修を組み込んでどうかとの意見があり、今回のコラボ企画が誕生いたしました。

内容は、1. 鳥海麻酔科医長の「人工呼吸器の管理」では、人工呼吸器の原理と管理について。2. 林主任臨床工学技士による「人工呼吸器機器の管理、原理について」「リース器械の紹介」では、主に人工呼吸器の器機サイドの取り扱いポイントなどについて。3. 竹内ICU副看護師長による「人工呼吸器装着中患者の看護」では、看護師サイドでのアラーム対応や看護師として必要なチェックポイントなどについて講義を実施しました。

院外より医師4名、看護職49名、理学療法士8名、言語聴覚士2名、臨床工学技師1名の計65名参加がありました。また、院内からも80名の参加があり、計145名と会場は満員で大盛況のうちに終えることができました。

我々地域医療連携室では患者さんの前方・後方支援を担当しております。その中で最も難渋するのが人工呼吸器装着中の患者さんの転院調整です。ご家族のアクセスを優先させたくとも、ご希望エリアへの転院ができないことのほうが多いのが現状です。今回の合同勉強会を機に、地域医療機関の皆様との情報交換や勉強会を活性化していくことも、我々の役割である事を再認識いたしました。今後とも宜しくお願い申し上げます。






児童指導員 中島 章勝

今年も5月29日(土)に「つくしまつり」を盛大に開催することができました。

今回の開催テーマは、「龍馬」「お祭り」「山」をメインに利用者様から意見が出され、龍馬伝の人気にちなんでパネル制作に取り組みました。

当日は、いい天気で絶好のまつり日和です。各店舗の準備も午前中に整い準備万端です。12時には会場の療育訓練室にお客さんが続々と集まり、会を運営する桜会会長 門脇さんより「これからはじめます！」を合図に、一斉に各店舗の販売スタートです。今年は、「良心市」「たこ焼き・たい焼き屋」「アイス・かき氷」「ファンシーショップ」「喫茶」「和風喫茶」「養護学校」そして新たに「うどん」コーナーを設けました。各店舗好調なすべり出しで、アイス・かき氷や、冷たい飲み物等がたくさん売れました。また、「良心市」では、ご家族より新鮮な野菜や日用品、花、果物等の品を提供して下さり、飛ぶように売っていました。また、中庭で利用者様が手塩に育てていた、じゃがいもやたまねぎも収穫販売を行い、売り子には利用者様自らが「いらっしゃいませ〜」と元気な声を出してまつりを盛り上げていました。

13時半からはメイン会場で「のど自慢大会」を行い、予選会で選ばれた6組の方が本選に臨みました。審査員には、大串院長・嘉藤事務部長・矢野看護部長になっていただき、曲目に合わせた衣装に着替え、コメントや審査をしていただきました。6組が歌う曲は、演歌から歌謡曲まで幅広く、一人ひとりが個性豊かに日々の練習の

成果を発揮していました。曲の途中では「キンコンカン」と鐘の音も鳴り、昨年とは少し違ったのど自慢大会になりました。

審査員が別室で審査をしている間、メイン会場ではうどんの早食い大会を行いました。各病棟の師長さんとスタッフが舞台上がり、うどんを片手に「スタート！」の合図とともに、コシのある本場さぬきうどんを「ズルズル」と啜りました。凄い勢いで真剣に食べている姿はまさに気合い充分で、つゆが飛ぼうが麺が口からこぼれようがおかまいなしです。お客さんからは「楽しかった」と拍手をしていただきました。

いよいよ「のど自慢大会」の結果発表です。審査員より6組の出場者に甲乙つけがたく、全員にそれぞれ賞を決めていただき、大串審査委員長より一人ひとりに景品を手渡していただきました。利用者様たちが笑顔で景品を受け取っている姿が印象的でした。最後は、桜会副会長 北川さんより「ありがとうございます！」の声で閉幕しました。

野菜や日用品等を提供して下さった保護者の皆様や、当日の準備から後片付けまで手伝っていただいた保護者の方、OBの方やボランティアさん、つくしまつりに来ていただいた多くのお客さんに感謝いたします。利用者様も楽しい一時を過ごされたつくしまつりでした。



つくしまつりのボランティアを 通しての学生の学び



国立病院機構高知病院付属看護学校 1年生副担任 岡本 千晶

つくし病棟の龍馬博（つくしまつり）にボランティアとして学生29名が参加させていただきました。

1年生は看護学校に入学してまだ3か月であり、看護の学習を始めたばかりです。今回のつくしまつりでのボランティアでは、病棟に行くのも患者さんに接するのも初体験で不安や戸惑い、驚きもあったようです。しかし、各学生が不安や戸惑い、驚きだけで終わらせず、看護学生としての気づきに変えることができたのも、つくし病棟のスタッフの皆さんがボランティアの学生を温かく見守っ

てくださったからだと思います。

ボランティア終了後、学生の方から今回のボランティアを通して得たものを参加した学生だけの学びで終わらせず、ボランティアに参加していなかった他の学生にもぜひ伝えて学びを共有したいとの要望があり、クラス新聞という形で各個人が感想や学びをまとめてくれました。その一部をご紹介します、この学びの機会を与えてくださった患者さんと病棟スタッフの皆さんに感謝致します。

初めてボランティアに携わってみて、自分の非力さを本当に実感しました。何を聞けばいいの？ 何をすればいいの？ 疑問だらけで頭は真っ白。しかし、校内実習で学んだ、患者さんをベッドからストレッチャーに移乗させるという場面に立ち会った時、自然に手や足が動き、そんな自分にびっくりしました。校内実習をする時に「いかに臨地にいる気持ちで臨めるか」がどんなに大切なことなのか。そして、ボランティアに参加することにより自分のパーソナリティがほんの少し広がった気もするし、今回参加できたのはとてもプラスになったと思うので、これからどんどん参加して自分の視野を広めていきたいと思います。参加していない人は是非参加してみたいです。今の看護への気持ちに必ず良い影響を与えてくれると思います。

ボランティアでは、私たち看護学生は患者さんを各自1人受け持ちました。私が受け持った方は、言葉を発することも理解することもできないようで、寝たきりでした。始めは、話しかけてみましたが通じることはなく、とりあえず崩れた姿勢を直したり、吸引が必要そうになれば看護師さんと呼んだりしていました。祭りが始まってからは車椅子に乗っていただき、会場内を歩き回りましたが、患者さんは色々な表情を見せてくれました。病棟内ではずっと無表情でしたが、外に出れば眩しそうな表情、看護師さんを通じてフルーチェを食べていただいた時には、笑顔とまではいきませんが、表情が明るくなったのが分かりました。時間が経つにつれ、患者さんのちょっとした変化にも気付けるようになってきて、暑くないようクッションの向きを変えてみたり、涙を拭いてみたり。最初感じていた、居づらいという雰囲気も変わってきて、隣にすることが苦ではなくなっていました。むしろ、傍で見守ってほしいほどです。このボランティアを通して、実際に患者さんに触れることができ、コミュニケーションが取れないことのもどかしさもありましたが、何をすればこの患者さんのためになるのかを一生懸命に考え、行動をすることができたことは、とても良い経験となりました。



平成22年度 春期防火訓練を実施して



国立病院機構高知病院附属看護学校 専任教員 田原 佳奈

「燃やすのは、看護に対する熱意だけ」というスローガンをかかげ、平成22年5月31日から6月4日を火災予防強化週間としました。ポスターとオリエンテーションで、学生には意識づけ、防火訓練の日時に関しては、その瞬間まで秘密にしていました。

このように計画したのは、昨年“(防火訓練の)シナリオ通りに行くことに意識が集中し、避難開始が早かったり、確認ができていないのに次の行動をしていた”というような反省点から、より臨場感のある状況と、現実にも即した内容で訓練を行う必要性を感じたからです。

前年度のシナリオや反省点などを参考に、その時中心になって動いてくれていた小林教員とともに試行錯誤しながら計画を立案していきました。前年度と違って、全体には訓練の日や流れを知らせない方向だったので、臨場感をもたせつつも、どうやって学生達の安全を確保しながら全体を動かすのか非常に悩みました。

結局、第一発見者や初期消火に当たる人など、最小限の担当者を決め、その人達には全体とは別でオリエンテーションを行い、他の人には秘密にしておいてもらいました。当日は搬送訓練を行う予定だったので、訓練とさとりれずに、適した服装で待機してもらう必要がありました。

6月3日、13:30、消防署の方、事務部長、管理課長、電気士長の立ち会いのもと、火災発生場所である学校3階在宅看護論実習室に充満させた発煙筒の煙を感知し、非常ベルが鳴り響きました。2階に知らせに行く予定だった学生が「打ち合わせ通りの動きができなかった」と感想を書いていましたが、私自身も直前に持ち出すよう言われていたにもかかわらず、出席簿を持たずに避難場所に行ってしまいました。一方2・3年生はさすがに落ちており、窓もきちんと閉め、ハンカチを口にあって、冷静に避難できていました。災害は決して予測できるものではなく、特にそ

ういう状況になった時、人間はパニックに陥りやすいと言われてしています。シナリオ通りの訓練が滞りなくできることが目的ではなく、本当に災害が起きた時に、冷静に適切な判断・行動ができる能力を養うことが本来の目的です。今回の訓練を通して、自分がいかに冷静に判断できなくなるかを実感できたことはよい経験となり、日頃から防災に対する意識を高めておく必要性を感じることができました。

今年は、消火器を使った消火訓練に加え、1人あるいは2人で、動けなくなった人を搬送する方法を、消防署の方から伝授していただきました。また、昨年度は雨のため中止になった寮からの降下訓練を実施することができました。

降下訓練に関しては、実施した人から「思ったより怖くなかった」「一度やっておくといざという時に躊躇しない」などの声があり、体験しておくことの意義を感じることができました。

搬送訓練に関しては大変好評で、「実際に活用できるよう練習したいと思った」「現場で多くの人々の命が救えるよう積極的に動きたい」など、将来看護師として患者さんの命を守るという使命感や、自分もそこにいることで役に立てるという自信を抱くことにつながったのではないかと感じました。

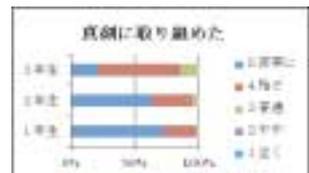
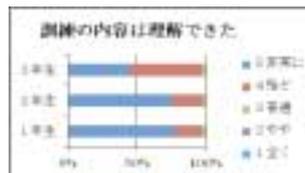
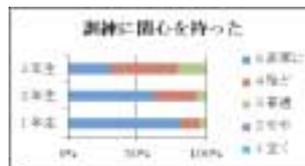
今回の防火訓練の実施にあたり、ご協力いただきました皆さんに感謝するとともに、今後の実践に活かせるような取り組みを考えていきたいと思えます。



防災訓練後の学生の学び

- 状況判断が大切な点や患者さんを第一に考える点など防火訓練にも看護に通じるものがあったように思った。
- いざという時に備えて日頃から練習しておく必要性を感じた。
- 周りの様子も見ながら看護師としてしなければいけないこと、できることを判断する必要があると思った。
- いつ火災が起こっても安全で迅速に避難できるように避難経路をしっかりと確認し、クラスで役割を確認しておくことが大切だと思った。
- 患者さんを運ぶとき、一番負担のかからない動作で運ぶことで、災害時、何人もの命を助けることができる。
- 方法を知ることにより、実際に災害があったときに知識があるのとないのではその時の対応が違ってくる。
- 看護師として患者さんの安全を第一に考え、運ぶ方法、どこへ避難するかなど自分で判断しないといけないこともあるので、判断力を身につけ、今日やった運び方などを身につけていきたいと思った。

- 緊急時の対応方法を知っているといないとでは、心理的な動揺への影響も変わってくると思うので、そういった時こそ本日の学びを思い出し、冷静に対応していきたい。
- 何気なく家の通路に消火器があったり、町内の防災訓練があったりするが、使い方を知らなかったり、参加をしなかったりで、防災に対する心構えが足りなかったと思う。今日のこの訓練の経験を活かし、自主的に積極的に参加などしたいと思う。



「院内助産 ほほえみ」開設



4階南病棟 佐藤 愛美

昨年、当院の分娩件数は699件でした。これは高知県全体の出産の約10%、高知市では約20%にあたり、高知県の周産期医療の主要病院として当院は大きな役割を担っているといえます。一時期、産婦人科医師が1名となりご迷惑をおかけしました。現在は3人となり、里帰り分娩や、母体搬送もNICU医師と連携し受け入れ可能となっています。

さて、皆様は助産師という職業をご存じですか？助産師は看護師免許取得後に専門機関で勉強し国家資格を持つ周産期のスペシャリストです。当院の周産期病棟にはその助産師が看護師長を含め23人勤務しております。その専門性を活かし、お母さんと赤ちゃんまたそのご家族の方々によりよい看護を提供するために色々な活動をしています。平成19年より助産師外来での妊婦相談・乳房マッサージの実施をはじめ、平成21年より認定研修を受けた助産師が中心となり、マタニティ・ヨーガやベビーマッサージを開催しています。そして今年の6月から「院内助産 ほほえみ」を開設し、助産師による妊婦健診の実施を始めました。「妊婦さんが、主体的に安心して楽しい妊娠期を過ごすことができる」をその目的としてい

ます。助産師による妊婦健診は完全予約制になっており、お待たせする時間が少なくなっています。また、ゆっくりお話しさせて頂き、妊婦さん一人ひとりにあった食事や運動、骨盤ケアや冷え対策について一緒に考えていきます。医師が毎行っている内診はありません。助産師による妊婦健診の対象者には基準があります。本人と家族のご希望があり、正常に経過している方で医師の許可があれば受診可能です。途中に何回か医師の診察があり、異常の有無を確認していきます。

私たち助産師が楽しいマタニティライフのお手伝いをさせていただきます。

詳しいことにつきましては、産婦人科外来でお尋ねください。



今年も幸福の使者が やってきました



管理課長 久保田 克也

旧高知病院の時代から患者さんの憩いの場となっている院内にある「寿公園」横のカイツカイブキに今年も幸福の使者が東南アジアから飛来しました。

幸福の使者はアオバズクといい、「ホッホ・ホッホ」と鳴く小型のフクロウです。青葉の茂る頃に現れて鳴き始めることから、この名があるそうで、一般にフクロウの声として知れ渡っているのはこの鳥の鳴き声だそうです。

近隣の方はこの時期当院のカイツカイブキに毎年現れることをよく知っていて、木の下からそっと眺めています。飛来した幸福の使者は、ツガイで雄は木の少し高いと

ころで、雌は雄から2mほど離れたところで、いつも木の上でじっと周りの様子を眺めています。

その訳は、カイツカイブキの隣のセンダンの木に幸福の使者の巣があり、かわいいひなが3匹生まれているからです。

フクロウは、不苦勞、福朗といい知恵の神様の使者、幸福を招くといわれています。高知病院も毎年訪れるアオバズクにあやかり、今後も地域の皆さんが幸せになれるよう発展し続けたいと思います。

来年は、ひながペアで訪れることを期待して静かに見守っていきたいと思います。



平成22年度

中国四国ブロック管内医療職(二)・
福祉職採用職員研修会に参加して臨床検査科
吉田 慎也

先日5月27～29日に東広島医療センターで行われた平成22年度中国四国ブロック管内医療職(二)・福祉職採用職員研修会に参加しました。

この研修会は薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、心理療法士、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、栄養士、児童指導員、保育士が対象の研修会で今年度は参加総数95名の研修会でした。この95名は中国・四国内にある独立行政法人国立病院機構の新採用者が対象で、国立高知病院からは私が臨床検査技師として全職種で1名の参加でした。

研修内容は三日間で一日目に「独立行政法人国立病院機構の現状と運営」、二日目は「接遇研修」、三日目は「専門職研修」でした。

一日目は国立病院機構の現状と運営などの講義で、病院全体の現状・運営状況、各部門などの組織について聴講しました。現在の医療業界における産婦人科や小児科、救急外来の医師不足について、今後どのように対応していくか。経営においては、厳しい状況で病院経営は職員一人一人が認識し、務めていかなければならず、私たちコメディカルも積極的に経営に参加していかなければならないという内容でした。例えば、企画課が経営情報を作成・管理し、その経営情報を見ながら、院長や理事長等の経営部門が中心になり、現場スタッフ（医師、看護師、コメディカルなど）と協議しながら、経営目標を定めたり、必要なコスト削減策を検討したりする。また、各部門が収支を管理していかなければならない事を

知ることができ、日常的な経営管理を確立していく事の必要性を認識させられました。

二日目の「接遇研修」は一般的な接遇についての講義内容に加え、各職種に分かれて「職場で、このような状況ではどのように対応するか？」と言ったテーマで、グループディスカッションしました。私は臨床検査技師のグループで新採用者のみんなと先輩からの意見を交えながら討論し、最後には最善な方法の一つにまとめて、全研修参加者の前で発表するといった研修内容で、実際に起こりえる内容であった為に非常に今後の参考になりました。

三日目の最終日は「専門職研修」とは各職種に分かれて、各学術分野の先輩方から国立病院機構で仕事をしていく中での注意事項と仕事内容、医療技術の向上についての研修会でした。私の臨床検査技師研修内容は生化学検査・輸血検査・一般検査・血液検査・微生物検査・緊急検査・生理検査について行われ、各検査について講義と、仕事に対しては迅速・正確・システム効率・コスト追及をすることが必須であると教えられました。また、これからの私達新採用者に期待する事として、幅広い最新知識を柔軟に受け入れ理解すること、さらには検査学や検査技法、装置の研究・開発に努力を行い、着実な研究論文、学会活動を積極的に行っていくような技師になるように期待をされました。

このような内容の研修会で三日間を過ごしましたが、研修会全体を通して中国・四国ブロック全職種の方々とも情報交換が出来、有意義な研修会となりました。



医療安全管理室



循環器科 医長
山崎 隆志

医療メデイエーション研修会に参加して

平成22年6月10日(木)、ふくし交流プラザで行われた医療安全管理研修会に参加して来ました。医療メデイエーションの論理と技法を学ぶというのが一番の趣旨でした。

医療メデイエーションとは、患者さんと医療者が何らかの要因で対立関係に陥ってしまった時（陥りそうな時）、その両者の向き合う場を設定し、対話を促進することを通して、関係再構築を支援するしくみのことをいいます。その橋渡しをする人を医療メデイエーター（医療対話仲介者）と呼び、このメデイエーターが大変重要な役割を果たすことになります。

どの医療機関でも、医療者－患者関係構築は興味深い問題のようで、参加医療機関、職種も幅広く、

総勢570名の参加がありました。前半で和田教授（早稲田大学大学院法務研究科）の講演を聴講し、後半で医療メデイエーション推進委員によるロールプレイを行いました。当院からは私、築森副看護部長、佐藤看護師が、JA高知病院から谷口看護師が参加し、汗だくのステージを展開しました。

会の詳細は割愛させていただきますが、医療者－患者関係は、ちょっとしたボタンの掛け違いが大きなトラブルに発展しかねません。医療メデイエーションに大切なことはよく相手の話を聞くことで（実はこれが一番難しかったりする）、相手の深層心理をうまく引き出すテクニックが必要だと感じました。そして、このメデイエーターマインドを今後の診療にうまく役立てていければと思いました。



外来診療担当医表 (平成22年7月1日現在)

受付時間 8:30 ~ 11:00 整形外科・火曜日は8:30 ~ 10:30 です。 休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日 ~ 1月3日
耳鼻咽喉科・月曜日、水曜日は8:30 ~ 10:00 です。



独立行政法人
国立病院機構
高知病院

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385
http://www.hosp.go.jp/~kochihp



高知病院の
シンボルマーク

診療科	区分・診察室番号		月	火	水	木	金
内科	午前	1 診	⑫ 板垣	稲山	篠原	町田・阿部	畠山・稲山
		特別外来	⑪ 松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後	専門外来					
神経内科			⑰ 不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器科 アレルギー科	午前	1 診	⑧ 篠原 勉	大串 文隆 (リウマチ科も診察)	畠山 暢生	大串 文隆	岡野 義夫
		2 診	⑥		町田 久典		
	午後	専門外来				禁煙外来 14:00~15:30(予約制)	
消化器科	午前		⑨ 井上 修志	友兼 毅	板垣 達三	井上 修志	友兼 毅
循環器科	午前		⑦ 山崎 隆志	名田 晃	名田 晃	山崎 隆志	名田 晃
	午後	専門外来				ペースメーカー(第1木曜)	
リウマチ科			⑩ 松森 昭憲 (糖尿病も診察)	大串 文隆	大串 文隆		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	午前	1 診	① 小倉 英郎	小倉 英郎	武市 知己	小倉 英郎	高橋 芳夫
		2 診	② 武市 知己	山遠 剛	山遠 剛	大石 尚文	山遠 剛
		3 診	③ 大石 尚文				小倉由紀子
	午後	専門外来		アレルギー	アレルギー 特殊予防接種	乳児検診	アレルギー NICUフォローアップ
予防接種			14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)
外科	午前	1 診	⑤ 安藤 勤	長堀 順二	佐藤 宏彦	安藤 勤	長堀 順二
		2 診	⑥ 大塚 敏広	小笠原 卓		大塚 敏広	小笠原 卓
	午後	専門外来		安藤 勤 乳腺外来		佐藤 宏彦 ヘルニア・胃腸専門外来	日野 弘之 乳腺外来
整形外科	午前	1 診	① 篠原 一仁	兼松 次郎	小林 享	篠原 一仁	久保 貴博
		2 診	②				
脳神経外科	午前		⑧ 新野 清人	新野 清人			新野 清人
	午後	専門外来		神経超音波			神経超音波
呼吸器外科	午前		⑦	日野 弘之		吉田 光輝	
小児外科	午前		⑤	佐藤 宏彦			
皮膚科	午前		⑬ 永野 弓枝	永野 弓枝	永野 弓枝	永野 弓枝	永野 弓枝
泌尿器科	午前		⑨ 渡邊 裕修	笠原高太郎	渡邊(奇数週) 久野(偶数週)	笠原高太郎	渡邊 裕修
産科	午前		⑳ 米谷 直人	福家 義雄	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子
	午後						
婦人科	午前		㉑ 福家 義雄	小林 文子 (予約のみ)	小林 文子	米谷 直人 (予約のみ)	米谷 直人
			米谷 直人				
眼科	午前		㉒ 戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前		⑯ 関田 拓馬	関田 拓馬	関田 拓馬	関田 拓馬	関田 拓馬
	午後						
リハビリテーション科							
放射線科			小松 幸久	塩田 博文	松岡 葵	塩田 博文	小松 幸久

※ 内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。